

# 行政評価システム導入に係る調査研究報告書

新たな行政システムの構築を目指して 一

平成14年3月

芦屋市行政評価システム調査研究会

## はじめに

平成7年に起きた阪神・淡路大震災によって、本市は壊滅的な被害を受け、この復旧・復興により深刻な財政危機に見舞われている。さらにバブル経済崩壊後の長引く経済不況や地価の下落などにより本市の主財源である税収が落ち込み、財政再建への道程は依然として厳しい状況にある。

このため、財政再建を最優先課題として掲げ、さらに行政改革の基本的視点として、自らの地域の問題は自らが決定し自ら責任を負うという「自己決定・自己責任」とともに、「最少の経費で最大の効果」を上げるこれら二つの要素が不可欠である。

複雑化、多様化する事務事業に限られた財源で対応していくためには、これまで以上にその基本に立ち返ることが重要となってきた。職員一人一人がコスト意識を持ち、費用対効果を常に念頭において事業を推進し、効率的な行政運営を行っていくことはもちろん、事業が効果的、効率的に実施されたかどうかを評価点検し、事業内容の見直しを行うとともに、次の政策、施策に反映させていくことが必要である。

このため、本市では平成12年9月から「行政評価システム調査研究会」を発足させるとともに、行政評価システムの調査、研究に取り組んでいる。本報告書では、これまでの取り組みの状況及びその結果明らかになった問題点と課題、さらに解決に向けての来年度以降のスケジュールを整理している。

第1部	4
1. 行政評価システムとは	4
2. 行政評価システム導入の背景とその必要性	5
(1) 社会経済環境の変化	5
(2) 行政評価システム導入の必要性	6
3. 行政評価システム導入の目的	8
4. 芦屋市における行政評価システム導入の取組み	9
5. 芦屋市における行政評価システムとは	9
(1) 導入目的を段階的に設定する	9
(2) まず事務事業を対象に評価する	10
(3) 事業の体系化を図る	10
(4) 市民の視点からの評価を行う	11
(5) 事業コスト計算を段階的に実施する	13
(6) ミドルマネジメントの活用を図る	13
第2部	14
1. モデル事業評価	14
(1) モデル事業評価の実施目的	14
(2) モデル事業評価の実施内容	14
2. 事業チェックシートと経費計算シート	28
(1) 事業チェックシート	28
(2) 事業チェックシートの記載要領	30
(3) 経費計算シート	33
(4) モデル事業評価の結果	40
(5) モデル事業の目的体系別一覧	41
(6) モデル事業のコスト一覧	42

第3部 .....	68
1. 今後の課題 .....	68
(1) 事業の目的体系化 .....	68
(2) 横断的，組織的な推進体制づくり .....	68
(3) 導入のための研修の仕組みが必要 .....	68
(4) 順次検討すべき項目 .....	69
事業コストの把握 .....	69
目的達成指標の把握 .....	69
事業の種類ごとの評価手法の確立 .....	69
政策，施策評価への展開 .....	69
情報公開・公聴方法の検討 .....	69
外部評価の検討 .....	69
2. 今後のスケジュール .....	70
 資料	
1. 芦屋市における行政評価システム導入の取組み .....	71
(1) 調査研究会の発足 .....	71
(2) 調査研究会の活動経過 .....	71
(3) 行政評価システム調査研究会メンバー .....	73
(4) 行政評価システム調査研究会設置要領 .....	76
(5) 電子会議室の設置 .....	77
(6) 公募委員の活動経過 <平成12年度> .....	78
(7) 作業チームの活動経過 <平成13年度> .....	80
(8) 行政評価システム研修等 .....	83
2. 行政評価に関する用語説明 .....	84